

とうとう梅雨の時期に入り、むしむしした日が続いていますね><
さて、今日は妊娠糖尿病の治療について、変わった側面からのお話です。

日本での妊娠糖尿病の治療は、食事療法で血糖が改善しない場合は、インスリン療法しか認められていません。

というのも現時点で胎盤移行性がない（つまり赤ちゃんへの影響がない）のが実証されているのがインスリンのみだからです。

一方でアメリカ、イギリス等の諸外国では、インスリン療法だけでなく経口血糖降下薬を用いているケースも多いのです！

背景には、インスリン注射による金銭的負担や手技の面倒さ、低血糖のリスクがあり、患者さん側の治療の満足度では経口血糖降下薬が好まれるようです。古くからあるグリベンクラミド、メトホルミンというお薬が主に用いられています。

日本では、倫理的な問題から、インスリン以外の治験や治療例はほぼ皆無ですが、諸外国では、おそらくインスリン加療が困難な貧困層も多いため、より安価な前述の2剤での治験が積極的に実施されているのではないかと思います。

気になる母胎への影響についての報告では、グリベンクラミドは胎盤移行性が低い、児の催奇形性は少ない、母体の血糖推移は良好であった一方で、母児の低血糖が多い、またメトホルミンは胎盤通過性あり、早産や低出生体重児の報告がある、等述べられており、安全性はやはり100%保障されてはいないようです。オランダでは、現在 SUGAR-DIP trial という多施設・大規模臨床試験が行われ、妊娠糖尿病患者さんに対して、メトホルミン+（グリベンクラミド）対インスリン療法の治療の有効性に関して検討されています。医療が年々目まぐるしい変化を遂げ、これまでの非常識が数年後には常識になっているこの世の中です。日本では、妊娠糖尿病症例に対しての経口血糖降下薬は、現在禁忌と位置付けられていますが、将来もしかすると安全性が確立され、治療の一つとして選択可能な時代もくるかもしれませんね！

【看護主任 A より】

こんにちは。6月になり緊急事態宣言が解除され少しだけほっとされたことと思います。私たちスタッフは引き続き感染予防対策、健康管理に努め、今だからできることを日々模索しながらがんばります。皆さまもどうぞご自愛くださいね。

☆管理栄養士監修☆ ～新生姜のにんじんラペ～

<材料>4人分

- ・にんじん・・・350g(約1本) →千切り
- ・新生姜・・・30g(1片) →みじん切り
- ・ミックスナッツ・・・30g →乾煎りし荒砕き
 - ・炒-ア-オイル・・・60g(大さじ5)
 - ・酢・・・・・・・・・・30g(大さじ2)
 - ・はちみつ・・・・・・・・7g(小さじ1)
 - ・塩・・・3g(小さじ1/2)
- *バクチー・・・適量



<レシピ>

- ①千切りにしたにんじんに軽く塩をしておく
- ②Aの調味料をよく混ぜ合わせる
- ③、①に新生姜とミックスナッツ、②を和えて出来上がり

*常備菜におすすめです！

今月の食材：新生姜

これから秋にむけて出回るみずみずしい新生姜、やわらかく辛さもまろやかです。辛味は血行をよくし新陳代謝を高めてくれます。ショウガオールは抗酸化作用が高く*「ガン予防が期待できる食品」にも選ばれています。

暑くなるこれからの季節にさっぱり食べられておすすめです。

*アメリカ国立ガン研究所より